婦人と新社會

山田わか主筆

十月號

母性の愛

婦人と美的觀念

進歩の足どりとおみこし

或る日の姉妹の對話

親と子と學校

接客業婦の檢梅

—編輯の後—

大正九年三月二十三日第三種郵便物認可
大正十五年九月二十三日印刷納本

毎月一回一日發行　第七十九號　大正十五年十月一日發行

東京　婦人と新社會社發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

母性の愛

カーライルは曾て、彼が尊敬し頌讚する人は二人しか無い、そして、その二人とは勞働者と學者である、と世界に向つて宣言した。

カーライルの其の言葉には誰でも同感であるに相違ないが、併し、それ等の二人の上に位ひするものがもう一人あることを忘れてはならない。其のもう一人とは、常に働きそして愛してゐる母である。

母に對する敬愛及び頌讚は前述の二人よりもより高くより深くなければならない。

世間は往々軍人の勇氣を讚美する。そして、それは正しい。けれども、この軍人の勇氣は、四六時中、不變不斷に夫のため子供のために働いてゐる母の勇氣とに比較した時には小さいものである母は單身で最も烈しい戰ひを常に續けてゐる。彼女は、決して止む時のない前哨の義務も第二線の義務も一人で勤めてゐる。そして、彼女の其の重大なる義務を全ふさせるものは彼女の胸のうちに燃へてゐる愛の力である。

彼女は彼女の生活である、そして、又、彼女の活動場裡である家庭に於て、先見をし、準備をし夫並びに子供を奬勵し、靈感を與へ、彼等の心身の痛みをいたはり、癒やし、そして保護する。

併し、あゝ。母の此の尊い犧牲、絶對に必要なる勞力は餘まりに度々男子から社會から無視されてゐる、のみならず多くの男子は、猶・それよりもより多くの心身の慰安を母からむさぼりとらうとしてゐる。

黎明を求めながら、くらやみの危險な道をよぢ登りつゝある間、それは必ず來ることは分つてゐても、併し、夢に長く思へて失望に陷りそうになる時に、我々を慰め、我々に希望を與へるものは愛するが故に、日々勇敢に働きつゝある母が各家庭に居ると云ふ考へである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人と美的觀念

「それは單に理窟で實際には役に立たない」と云ふことをよく人は申します。實に、理論の終極は眞理で、實際の終極は善であつて、そして、眞理と云へば誰でもを服從させる權威があり、善と云へば誰でもを滿足させる力を持つて居るものでありながら、往々、純理と實際行爲とはまるで立場を異にしてゐるかのような觀さへあります。

が、幾分なりとも其の二ツが調和してゐる事實がある、つまり、理窟と實際とがいくらか接近してゐると云ふ事實があるのは、理窟則ち眞理、實際則ち善の外に、美乃至藝術と云ふものがあるからです。云ひ直せば、人間が生れながらに持つてゐる美的本能と云ふ感情があるので此の感情の働きによつて理論と實際が接近し、調和され、有益な働きをしてゐます。

「美とは、一時的な偶然的なものではなく、活動して止む時のない凡ての實體を貫いてゐる生きた原則の現れである」と云ひ、又「藝術とは人間の力の一時的な働きではなく、永遠のそして實體の心髓的性質と生命の發達の過程に於ける必要の階段である。」と「小宇宙」の著者は云つてゐます。

ですから、美乃至藝術と云ふものが如何に人生に必要であるかと云ふことは云ふまでも無いことで、人が美乃至藝術を求めて止まないと云ふことは正しい傾向であります。そして、美乃至藝術を自分に取り入れゝば入れる程、其の人

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の生活は理論と實際が調和し、其の生活は益々豐富になり、深くなり、幸福が增進する筈です。

處が、事實に於て、美の所有者乃至藝術家のうちには其の美なるもの、又は、藝術なるものが却つて理論と實際の不調和を生み、生活の破綻となつてゐる例があまりに澤山あります。そして、それは、彼等が本當の意味の美を乃至藝術を求めてゐたのでなく、實は、美の乃至藝術のかげを追ふてゐたに過ぎないと私は考へてゐます。

私共新時代の婦人は舊時代の婦人よりは一層强烈に美を求めなければならない。一層美しくならなければならない。なぜなら、私共今の婦人は以前の婦人よりは發達の過程に於て一層高い階段の上に生きてゐる者でありますから。美を求むることを、一層美しくならうとすることを目標に於て、私共は日々の修養につとめて一向差し支へありません。

だが、それが、唯、天ぷら的の美しさでないことを私は望みます。立派な織物で出來てゐる衣服は美しい。精巧なかみ飾りは晴れやかです。白粉や紅の香りはかんばしい。それ等は確かに美術品と云つてよいものでせう。――我が日本では、今迄の處では裁縫師は單なる職人でありました。今後は追々其の位置が變つて行くと思ひますが。けれども、西洋では或る程度迄の腕が出來て居れば婦人服裁縫師は立派な藝術家として昔から尊敬されて居ます。これによつて見ても衣服は確かに美術品であります。――もし、それ等の美術品が「凡ての實體を貫いてゐる生きた原則の現れ」であると云ふような人間として美しい完全に近い婦人の身に付けられたならば、その婦人はどんなに立派であるでせう。凡ての男が――勿論、女もですが――渴仰して止まない所謂「久遠の女性」とはさう云ふ風な婦人を差して云ふのではないでせうか？

けれども、世間の多くの婦人は、自分自身を人間として美しい者にしようとする努力はせずに、たゞ〳〵、孔雀の羽を借りる鳥のように、金で買へる美しいものを集めて來て自分の體につけて、それで美人になつたようなつもりでゐます。俗臭ぷん〳〵たる體につけられた其れ等の美術品が泣くであらうように。私の主人の言葉を借りて云へば「腐りかゝつた魚にむやみに水をぶつかけて新らしそうに見せようとしてゐる婦人」が餘まりに多いことは悲慘です。

進歩の足どりとおみこし

おまつりにおみこしが廣ツぱらへ擔ぎ出されて、人間の海のまツたゞ中で、揉みに揉まれてゐる時には、其のおみこしは前に進むのか、後に退るのか、右に行かうとするのか、又は、左によらうとするのか、ワツショ〳〵と云ふかけ聲がきこへるだけで、一時は、其の進んで行く方向はサツパリ分りません、

けれども、少しの間、待つて見てゐると、やつぱり其れは行かねばならぬ方向へ徐々とであるが進んで行きます。おみこしを擔ぐ大勢の若者のうちには後に引く者、右に左に押す者があつても、全體としての意向は前に進むのであるからです。

此の世の中の進歩の足どりは、丁度、此のおみこしの足どりのようなものだと云ふことを、私はいつも考へてゐます。或る問題を擔ぎ出しては、あゝでもない、こうでもない、其れでは退歩だ、否、進歩だ、と、甲論乙駁のいはゞワ

ツショ〳〵と騷いでゐるうちに、全體としての人類を乘せた進歩と云ふおみこしは徐々とではあるが前進しつゝあると云ふことを私は感じてゐます。

全體としての意向はおみこしを前に進めるのであつても、大勢の若者のうちには、後に引く者、横に押す者があると同じように、社會の進歩と云ふおみこしを擔ぐ者のうちにも、事實に於て、前に進むことを妨げてゐる者がありますそして、それは、人間の凡ての禍の源なる惡性の少しも教育されてゐない本能の力を、自然性だとか、人間性だとか云つて祭り上げ尊重しようとする人々です。

凡の點に於て、則ち、知力の點に於て技術の點に於て、女子は男子に後れてゐると云ふことは事實です。けれども、性道德に關してだけは女子が男子よりも進んでゐると云ふことは常に私が力說してゐる處です。ですから、外の點ではとにかく性道德の範圍に於ては、女子が男子の指導者であるべきです。女子に其の聰明さと見識があるならば、女子が獲得した高い性道德の標準を男子に要求し、そして、男子が其れに從ふ筈でありますが、女子にはその意氣と見識が缺けてゐるし、又、男子側では、長年の間自分よりは低級な人間と思つてゐた、或ひは、自己の便宜のための存在物と考へてゐた女子に手を引かれ、敎へられることを心よからず思つてゐます。そして、女子の心情に心をくばるようなことはせず、本能の動くまゝに放縱な態度を續けます。

其處で、自分だけ淸い高い位置を保つてゐる意氣と根氣を持たない女子は、不健全な新思想の影響を受けて、其の高い位置から、男子の低い標準にまで走り下りました。そして「男がさうなら、女もこうする」と云ふ態度になつてしまいました。

かくして、今迄は、兩性關係の亂れに於て、苦しめられる者は殆んど全部女であつたに反して、此の頃では女の不貞操に苦しめられる男が續々と出て來ました。

今迄は、男には貞操觀念が皆無で、隨分亂れた性的生活が營まれても、女の方に、一人の男を守らうとする、守りたいと云ふ心情が強く働いてゐたので、不完全だとは云へ、家庭と云ふものが可なり確かな基礎の上に立つてゐることが出來て、種族は、先づ大體に於て保護されてゐました。

けれども、此の頃のように女が男と不貞操を競爭するようになつたのでは、實際、世の中が暗みになつたように考へる人があるのも無理はありません。

だが、これも、婦人の經濟上の獨立が女性獨特の任務に無理解な男子に反省を促すための實彈であると同じ意味で、男子の不貞操に反省を促す實彈の効用を持つものだと私は考へて居ります。女の不貞操が周圍を殊に子供を苦しめ、いくつも〳〵の家庭悲劇、殊に、家庭破壞の慘憺たる狀態を現出した時には、男もこれではならぬと云ふ處に氣付き、自分を反省するようになるでありませう。

そして、女子が既でに確保して置いた性道德の標準にまで、遲かれ早やかれ必ず進んで來るものであると云ふように私は樂觀して居ります。

進歩の足どりは、一見、進むのか退くのか見分けが付かないようでも、實際には徐々と進みつゝあると私が云ふのはこう云ふ過程に於てゞあります。

そして、八月九日、横田大審院長が大分縣大野郡大野村和田すみと其の夫熊夫との事件に對し、『夫にも貞操の義務あり。』と云ふ判決を下し、男の貞操に關して新判例を作られたことは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

確かに、前述の徐々と進みつゝある潮流の中の　浮標でありませう。

或る日の姉妹の對話

妹。いやな義兄(にい)さん

姉。何にがさ？　うちのおとうさんが何にかした？

妹。だつてさ。あなたがつむぎのへこ帶を買つて上げたつて、嬉しがつてゐらツしやるぢやないの。私がさツき這入つて來たら「ひろ子お前の姉さんがこんないゝ帶を　買つて呉れたよ」なんて云つてニコ〳〵してゐらしたけれど、あの帶を買つたお金はそも〳〵義兄さんが自分で稼いだお金ぢやないの「買つて呉れた」がおかしいわ。

姉。アラ、マー、とんだ處で憤慨するのねー。

妹。だけどねー、そんなものかも知れないわ。佐藤（彼女の死んだ良人）だつて私が何にか買つて行くと隨分喜んだわ。「かアさんが私にこれを買つて呉れた〳〵」といつ迄も云つてゐるので、しまいには子供達に笑はれたりしましたツけ。自分の月給を袋ごと私に渡して渡した以上は其のうちの一錢でも自分のものだとは思つてゐなかつたのねー。「回數券を買うんだから三圓お呉れ。あゝ、もう五十錢貰ひたいな、歸へりに一寸買ひたいものがあつたツけ」なんて云つて「いくら〳〵お出し」などゝ強い言葉を使つたことは一度も無かつたわ。だから、私が××新聞へ投書して原稿料が十圓貰へた時「此の十圓であなたのかけ

た前歯にクラオンをつけませう」―と云つた時にはそりや喜んだわ。そして、その喜びは死んだ後迄も現して居ましたね。こう云ふと迷信のようだけれど、あの大地震にコンクリートの建物の下ちきになつて、つぶされてから五日目にやうやく掘り出された時には、全身まつ黒に腐らんしてゐて何處にも見わけがつかなかつたんですけれど、口を開けてゐて私が入れさせて上げた其の金歯を見せてゐたんですからね。その金歯と、それから、これも私が買つて上げたヅボンツリで、それがあの人の死骸であると云ふことが分つたんですからね。

姉。本當にあの時は大變だつたわね。

妹。それはさうと、ゆんべね、會社の〇〇さんが來ましてね。「あなたの姉さんとこでは御主人よりは奥さんの方が有名なんですね」と云ひますの。だから私は云ひましたわ「ゑー、ゑー、さうですよ。義兄は姉さへよくなれば其れが満足らしいんですもの。精神的のこと知力的のこと、肉體のことまで、義兄は姉の世話をやいてゐるんですよ。何にかと義兄は調べては姉にいつも敎へてやつてゐるばかりでなく、寒いと云つてはあついものをこしらへて食べさせたり、暑いと云つてはつめたいものを飲ませたり、私はいつもおしようばんさせられるから、まア、有りがたいと思ひますがね、もし、そのおしようばんが無けりや、姉夫婦とは云ひながら憎らしいと思ひますよ」ッて話したの。

姉。随分、あなたは現金なことまで話すのね。

妹。義兄さんや、うちの佐藤ばかりぢやない、一體、男ッて無邪氣なものね。世間では男は横暴だの、女は男に虐待されるのと、随分やかましく云つてゐるけれど、併し、私達姉妹はチットモ虐待なんかされないわね。私は佐

藤が丈夫で居る時分に、こうしちや不親切になりやしないか、あゝしちや私が横暴ぢやないかしらと、そんなことばかり心配してゐましたね。姉さんだつて、こんなにいゝ義兄さんに少しでも薄情なことがあつちやすまないわね。

姉。薄情なことがありよう筈はありませんよ。私は長い間「神よ、こんなにも實意ある夫に對して、もし、私に不眞實な態度をとらしむる位ひなら、むしろ、此の身に死を與へよ」と祈りつゞけて居たんですもの。そして、此處まで來たんだから、もう。大丈夫よ。御安心なさい。

妹。さう……本當にね………要するに、何ですね、幸福な夫婦なんてものはやつぱり女の態度に大部分よるのね。男つて隨分單純なものですものね。自分の妻に滿足もし、安心もすれば、それで、たわいなくなるのね。家族の

幸福と云ふことを思ふ外餘念がなくなつて、唯、コロ／＼働いてゐるのね。…… 本當に、男ツて可愛いものですよ。氣の合つた男同志が何人かあつまつて話し合つて居る時など、あの愉快さツたらありませんね。何のわだかまりもなく腹の底までぶちまけて打ちとけてゐる處など、まるで此の世が極樂ね。そこへ行くと、女ツて嫌やな人間ね。本當の自分の氣持ちはキレーに腹の底へ押しかくして、口の先きだけでいゝかげんなことを云つてごちやまかしたり、口をすぼめて妙に氣どつたり私は女は大嫌ひ……

姉。アラ／＼女性の味方をして多少世間に向つてものを云つてゐる私の妹がそんなに女性に對して反感を持つて居ちや困りますね。

妹。あなたが女性に對して同情をお持ちになるのは、それはあなたの御自由ですけれど、私の云ふのは事實ですよ。私達の知つてゐる限

りのシツクリ合つてゐない夫婦者を考へて御らんなさい。そのうちのどの夫婦だつて、妻の方には同情したくたつて出來ないぢやありませんか。夫の方では本當に妻と打ちとけた生活をしたい人達ばかりぢやないですか。けれど、女の方が馬鹿で、やさしくすればつけ上がつていゝ氣になつて、くだらないことをべら〳〵しやべり出すし、やかましくすれば私の夫は私に愛がないなどゝ云つてふくれてゐるし、實際男もやりきれないでせうね。

姉。男の方から云へば、愛し得ぬなやみと云ふ處ですね。

妹。馬鹿で、虚飾で、うそつきで、おまけに疑ひ深いと云ふのが女ですよ。實際、さう云ふ女を相手に一生を送らなければならない男ツて可哀想ね。

姉。女の凡てがさうではないでせう。

妹。勿論、凡ての女がさうだとは云ひませんが大部分がさうなんですよ。……自慢ぢやないけど、もし、私がもう一度結婚すれば、先の佐藤を幸福にしてやつたと同じように、又、一人の男を幸福にしてやれると云ふ自信がありますね……。過去の男はどうであつたにしろ、今では、あだし女など振り向きもしないで、唯、一人の妻によつて全部を滿たして貰ひたい、唯、一人の妻に身もたましひもわたしてしまいたいと希つてゐる男が少なくないように思へるぢやありませんか。

姉。さうですよ。それが本當の行き方ですものね。けれども、まだ〳〵不純な肉慾に耽らうとする男が少なくないと云ふことは、花柳界の存在でも證明されてゐますがね。そして、それは、過去の野蠻な風習の遺物なんで、早晩消滅しなければならないものなんですがねとにかく、あなたが見てゐる傾向も確かに現れて來てゐますね。唯、形式だけでなしに、

純粹な意味の一夫一婦の生活を望んでゐる男の數はメキ〳〵と殖へつゝありますね。殊に若い男達のうちに。陋習でかたまつてしまつてゐる年とつた男はもう化石してしまつてゐるからどうにも仕方がないけれど、若い男達の中には有望な傾向がハツキリと見えて來ましたね。

妹。だから、姉さん、男女關係問題なんて云つたつて、要するに、女が利口になりさへすれば凡て解決がつくぢやないの。男の方にはもう用意ができてゐますものね。

親と子と學校

學生の身分で、云ひかへれば、親に食はして貰つて、國に教育して貰つてゐるブンサイで「社會改造」とか「理想社會の實現」とか公言するのは餘まりに口はゞつたい。へそ茶ものである。

事實はへそ茶ものでも、併し、國の立場としては、「全國的の學生大檢擧」などゝ大げさなことになる。痴情に狂つた一人の熊公を逮捕するに巨萬の費用とあの騷ぎを演ずることにもなるのであるから、それは、止むを得ないかも知れないが、とにかく、私は、學生さん達に希つて置きたいことがある。先づ、學ぶだけ學んでしまつて、せめて、自分の腕で、お米を一升なりと買へるようになつてから、ゆつくり、社會の問題には口をつけて貰いたいと。

とは云へ、學生達が、實際生活を全然忘れて、空想にのみつッぱしろようになつたに付ては、その責めを學生にのみ歸して置くことは出來ない。

○

「お前に職業をさせようと思ふと、私が骨が折れてやりきれない。もう、職業なんかおよし、およし。大きくなつて、夫や子供を持つた時には、布をふろしき

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のやうに大きくつなぎ合せて、まん中へ穴をあけて、其れをおッかぶせて、間に合せてお置きよ。そのつもりで居れば裁縫なんかおぼへなくてもすむから。」

高等小學二年の第一學期の始めから學校の先生に持たされた袷衣が九月に入つても出來上らないので、となりの伯母さんに

「おんなじ着物を幾枚縫ふの？」

などゝからかはれてゐる兄の遺兒に私は云つた。

「いやな伯母さん」

と彼女が云ふから、私は、

「なぜ？」

と問ひ返へした。

「だつて、伯母さんはあんまり先きのことを云ふんですもの。私が夫や子供を持つた時なんて、そりや、いつのことだか分りやしないわ」

「オット、お待ち、そんなら、お前は何のために學校へ通つてゐるのだれ。お前がいつのことだか分りやしないと云ふ其の時の準備として、學校へ通つていろんなことを今習つてゐるのではないのかれ。人間の生活が今日あつて明日が無いものならば、何にも覺へて置く必要はない……」

私は、いつの間にか、小さい姪に向つて説教をしてゐるかたちになつて、不圖氣がついて口をつぐんだ。

小さい姪が、「そりや、いつのことだか分りやしない。」

と云つて、呑氣にかまへてゐる心持ちが教育界全部の、教師も生徒もの心持ちではないかと云ふことを私は考へたのである。

私の知人の子息は來春〇〇大學を卒業しようとしてゐる。けれども、いよ〳〵大學を出ようとする今の今迄、社會に出て何をしようかと云ふことは一向考へてゐなかつたらしい。私の小さい姪の所謂「そりや、いつのことだか分りやしない。」式で、唯、漫然と學校へ通つてゐたらしいのである。

で、いよ〳〵卒業が目の前に迫まつて來た、今、その子息は狼狽して、そして、云ふ。「僕達は經濟學部を卒業するんですが、併し、僕達のクラスには一人だつて、卒業後經濟學を進めて行かうなぞと考へてゐる、

つまり、學者になろうとする者などはありません。親が大學へ行けと云ふから行つたんです、行き始めて、中途でやめるのは恰好が惡いから、別に面白くもないけれど續けてゐたと云ふだけで、何等の意味がなかつたんです。先生達だつて、氣らくと云ふのか、無責任と云ふのか、隨分、呑氣なものですね。六年間、大學へ通つてゐるうちに、僕達の將來に付ては一言半句だつて注意して吳れたことはない。考へて吳れる親切がないんだから、云つて吳れる筈はない。唯、定められた題目の講義を定められた時間だけしやべつてスット行つてしまう。僕達もスット歸つて來てしまう。そして、敎へられた經濟學が、學校を出てから一體、何の役に立つのだか、僕にはサッパリ分らないんです。僕のクラスの皆にもやつぱり分つてゐないんです。」

○

我が國の高等敎育は決して、人間としての敎育をさづける處でない。つまり、人柄を高尚にする處ではなく、單なる知識乃至技術を敎へる處だとは私の常に云つてゐる處であるが、――技術は別として――敎へられる其の知識が實際生活のために何の役にも立たないと聞かされたのでは、一體、學校は何のために存在してゐるのか？　何のために、貴重な年月を其の通學に費すのか分らなくなる。

唯、そればかりではない。實際生活には何等の用を爲さない單なる知識のための知識を取り入れて、しかも、何をして社會に立つかと云ふ方針が定まつてゐない結果は、云ひ直せば、何等の目標なしに種々雜多の知識を生かぢりする結果は、ツイに、空想につツぱしることになる。頭腦がさへてゐればゐる程、空想の翼は强くてとんでもない方向に、しかも、遠くつツぱしつてしまう。そして、全國學生大檢擧事件に連座してゐた者は皆學業成績優良な者であると云ふのが明らかに其れを證明してゐる。親は、唯、「子供に大學敎育までさづけた」と云ひたいばツかりに、何等の目的も立てずに漫然と子供を大學へ送る。敎授乃至講師はパンのために、時間通りに敎室に出て、唯、機械的に講義をする。

子供は、何が何やらわけも分らずに、唯、ボンヤリ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大學を出て、そして、路頭に迷ふ。要するに、それは必ず來るべき時を意識しないで、私の小さい姪の云ふ「そりや、いつのことだか分りやしない」式で過して來た結果であると私は思ふ。

人間のための、乃至、生活のための教育であるべきものを、唯、教育のための教育をする。云ひかへれば現代の教育病蔓延の結果でなくて何であらう。

○

内在してゐた學校教育病の害毒が、かくの如くに外部に明らかにふッきつた以上はそれ等の教育病患者の熱もやがてさめなければならないと私は考へてゐる。

接客業婦の檢梅

日本性病豫防協會は「性病を根だやしするには公娼ばかりでなく、一般に客に接する女の檢梅をも行ふべきである」と云ひ最近理事會の決議により

「性病傳播の虞ある接客業婦に對しては汎く之が檢診を勵行し罹病者は其の稼業を禁止し早期治療をなしうる途を開かれたし」

といふ建議書を會頭土肥博士の名で内務大臣に提出する事になつたと云ふ。そして、公娼以外の女、則ち接客業婦の範圍は少くとも私娼窟者を初め料理店女中酌婦女給に迄及ぼされば大した效目がなからうと云ふのだそうである。

が、これは全然彼女等を公娼視するものであつて、もし、此の建議書に從つた方針を採るとすれば、内務省は彼女等に賣春の鑑札を與へることになるだらう。公娼制度の一角がやうやく崩れ始めようとしてゐる今日更に新らしい種類の公娼を内務省は造らうとするであらうか？

一體、公娼の檢梅と云ふことが一方をのみ嚴重にして、他の一方を等閑にして置く矛盾極はまるものであつたが、その矛盾を更に押しひろげて一般接客業婦に

行つてその矛盾を徹底させようとするのであらうか？

一般接客業婦の檢梅をするのならば、同時に、さう云ふ種類の女に接近して行く男をもかたツぱじから皆ひツつかまへて、強制的に檢梅しなければ同協會の目的は果せないことになる。

さう云ふ女が住んでゐる家の周圍に必要に應じた人數の見張り人を置いてその家に出入する男を皆つかまへて來なければならない。

性病の傳播は生理的に隨分恐ろしい、同時に、果して、賣春してゐるかどうか分らない女をひツとらへて檢梅すると云ふことは道德上猶更恐ろしい。女性侮辱の甚しいものである。

故に、女の檢梅を內務省が實行するとすれば其處に出入する男にも行はなければならない。でなければ非常な片手落ちである。

だが、一體そう云ふ風に人間の威嚴を侮辱してまでもさう云ふ營業をさせて置くよりは全然さう云ふ營業を差しとめるのが當然であらう。

編輯の後

先月末に群馬縣佐波教育會の講演會に招かれて伊勢崎市へ行きました「お土產は伊勢崎銘仙ね」と娘が云つたのを思ひ出して教育會長に向ひ「伊勢崎銘仙は繭も糸も皆此處で造られますか」と尋ねました。「いゝえ、糸は大抵「鐘紡」から持つて來ます。織るには織つてゐますがね」と答へられました。歸宅してから「伊勢崎だからいい銘仙が買へると思ふのは間違ひよ繭も糸もあそこで出來るのではないってさ」會長の言葉はお土產を買はないいゝ口實になりました。

本誌臨時定價表

一册	金十錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	送料共）

[illegible]誌代及郵稅は前金の事[illegible]御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと[illegible]郵券代用は五厘切手にて一割[illegible]廣告は御照會次第御相談いたします

大正十五年九月廿三日印刷納本
大正十五年十月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京市牛込區山吹町一九八
印刷人　大杉函次郎

東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN